

1、 大熊町自閉症児親の会「スマイル」とは

大熊町自閉症児親の会「スマイル」は、さまざまな理由により、障がい(自閉症・学習障害・知的障害)を持った子どもたちを対象として、その子どもたちの健やかな育成、障がいの軽減、豊かな生活、そして将来の自立支援活動を実施。

平成 14 年 6 月・・・発足

平成 17 年度～19 年度・・・福島県県民子育て支援大賞/優秀賞受賞

平成 20 年度・・・みどりの大賞/審査委員特別賞受賞

平成 20 年度～23 年度・・・みどりの大賞/絵手紙部門/特別賞受賞 など

2、 東日本大震災以前の活動

発足より、障がいのある子どもたちの将来自立のため、あらゆる能力の可能性を見出す活動を実施。(水泳、木工、スキー、スポーツ、絵手紙、料理教室、礼儀作法、茶道、日本舞踊、自然散策、登山、キャンプ体験活動など)

平成 23 年 3 月 20 日スキー体験活動「親と子白銀の大自然を遊ぶ」実施計画中に、東日本大震災発生、東京電力福島第一原子力発電所事故により避難。

3、 生活再建にむけた支援活動

平成 23 年 4 月大熊町が会津で小学校・中学校再開することになった。多くの子どもたちは、大熊町の自宅に学用品や教材を置いてあり代替え品が必要になった。このことから、うつくしま NPO ネットワークに学用品 教材の支援を相談した。その際、大熊町との調整やうつくしま NPO ネットワークとの交渉役としてパイプ役に徹した。

小学校や中学校の再建のため、新品ランドセル 150 個、ノート、鉛筆、習字道具、クレヨン、絵の具、図書本など、2 トントラック 10 台分もの支援物資を搬入した。また、大熊町武内敏英教育長と話し合いを持ち、東日本震災によりショックが残っている小学生のこころのケアのため、こころのケアの専門家を派遣してもらうよう支援依頼も実施、子どもに加え、親のメンタルケアも展開。また、ふくしま子育て支援ネットワークの紹介を請け、避難所から応急仮設住宅および、借り上げ住宅に転居する際の生活支援物資の支援を受けた(広島県の NGO 団体 ANT)

5、 避難生活のなかでの子育て上の課題と対策

福島県の子どもたちは、高い放射線などのため、外で自由に遊ぶことも制限されていることが多い。大熊町の子どもたちも仮設住宅や借り上げ住宅の生活により、閉塞的になりがちである。このことにより親と子が触れ合う機会が減少し

た。また子育て中の親同士の交流の場も失われたことに加え、さまざまな不安から精神的ストレスを受けている親が増加した。このことに着目し、平成 23 年 7 月、大熊町自閉症児親の会「スマイル」は会津若松市で活動を再開。裏磐梯グランデコリゾートで青い空のもと、みどりの自然の中でパークゴルフや自然散策を実施。子どもたちや親も笑顔を取り戻してくれた。その後も継続的に活動。

9 月・・・そば打ち、パークゴルフ体験活動

10 月・・・パークゴルフ、トレッキング

11 月・・・福島県育樹祭参加

12 月・・・親と子のそば打ち・和菓子づくり体験活動 など

6、「原発」による避難状況と避難生活での課題

双葉郡の避難町村は先を考える間もなく避難をよぎなくされた。会津地方の廃校を利用し大熊町小学校と幼稚園を再開。このことは会津地方に大熊町民が集まるきっかけともなり、現在、会津若松市を中心に大熊町民が暮らしている。

「原発」による避難生活の特徴は、長期にわたるため、避難者の生活再建においても意見が分かれることである。故郷への帰還を望むか、新しい土地での生活設計をするかが世代によっても大きく異なるが、このような状況下でいかに地域コミュニティを再生していくかが問われている。

7. 高等教育の格差と家族分断の課題

相双地区から避難した生徒が在籍した高校で学べるよう臨時措置としてサテライト校を設置したが、各高等学校の存続（避難による教員の減少などによる）にも困難が生じたため集約がすすんだ。（双葉、富岡、双葉翔陽がいわきに集約。浪江、本宮、安達が集約。など）しかし避難先と学校拠点が異なる避難者も多く、高校生と小中学校などの子をもつ場合などは、結果的に家族内での分散が進んでいる。このことについて対応策を検討するも、教育の現場にはさまざまな制約があり、支援の手が入りにくいことから対応に遅れがある。

8、今後必要とさせるもの

双葉郡の町村は、子どもの学校の問題、働く場の問題などで仮設住宅から仮設住宅への異動や家族内でも 2 カ所、3 カ所に分散している家族が多い。拡散箇所も範囲も拡がりを見せ、地域のコミュニティを維持することが困難な状態であることから、地域をつなぎ止めるための交流会や地域の人が集まりやすい仕組み、家族が一緒に入れる時間を少しでも多く設けるための活動がより一層必要である。